

なっきょん

2014 春
SPRING



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

さらなる連携に 向けて

学長対談：奈良市教育委員会
中室雄俊教育長

羅針盤

自然環境教育センターの取組

クローズアップ

紐の絡み方の研究—結び目理論—

花木良准教授

ラボ・レター

書道 福光佐今研究室

なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ

～板書実践指導～



奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S SEASONAL PUBLICATION

<題字>名譽教授 池田 桂鳳



CONTENTS



02



07



13



15



17

2 特集

さらなる連携に向けて

学長対談：奈良市教育委員会 中室雄俊教育長

7 羅針盤

自然環境教育センターの取組

10 クローズアップ

紐の絡み方の研究 ―結び目理論― 数学教育講座 花木良准教授

13 ラボ・レター

書道 福光佐今研究室

14 ひと・あれ・これ

中学校の数学科教諭として活躍する林幹人さん

15 なつきょん's CLUB企画

奈教のひみつ ～板書実践指導～

17 留学生レポート

セントラルミシガン大学(アメリカ)杉山友理さんと西安外国語大学(中国)唐瑛さん

19 キラリ☆奈教生

理数教育研究センターを活用し、積極的に教科専門性を高める

20 ブカツ魂!

ラグビー部

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました! 奈教で得たもの



表紙のはなし

東市小学校放課後子ども教室「まなびーや」

今回の表紙は、「東市・日本一プロジェクト (TNP)」(P4 参照) で取り組んでいる放課後子ども教室「まなびーや」の一コマです。(モデル：小島 安浩さん 教育学部 学校教育教員養成課程 教育・発達基礎コース 3 回生：兵庫県立神戸高等学校出身)

「学習」と「遊び」の 2 本立てで活動している「まなびーや」の、「学習」の時間にお邪魔しました。元氣よく教室に駆け込んで来た子どもたちは、席につくと宿題を広げて取り組み始めます。それを学生が見守りながら、適宜ヒントを出したり、アドバイスしたりしていました。



特集

さらなる連携に向けて

長友恒人 × 中室雄俊

奈良教育大学長

奈良市教育委員会
教育長

対談

奈良教育大学長 長友 恒人

奈良教育大学教授、奈良教育大学副学長(研究担当) などを経て、平成21年10月に奈良教育大学長に就任。専門は文化財科学、物理学。

奈良市教育委員会教育長 中室 雄俊 氏

奈良市教育委員会少年指導センター所長、奈良市立都南中学校長、奈良市教育委員会学校教育課長及び学校教育部長などを経て、平成21年4月に奈良市教育長に就任。

奈良で学ぶ世界遺産学習

——世界遺産学習について、どのような取組をされているのでしょうか。

中室 世界遺産学習は、奈良教育大学と一緒に作り育ててきた事業だと思っています。振り返ってみますと、平成10年に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録されましたが、奈良市立の小学校では、平成13年から5年生を対象にして世界遺産現地学習を始めました。当初は主に世界遺産を回る社会見学のようなものでした。その後、当時奈良教育大学の教授でおられた田淵五十生先生(奈良教育大学名誉教授、福山市立大学教授)と出会い、奈良市の世界遺産学習をどのようにして進めていったらよいのかを議論していく中で、奈良にある歴史や文化や伝統を、しっかりと子ども達の中に根付かせたい、文化や伝統を営々と営み、残してくれた先人の思いを子ども達に学ばせたいという、現在行っている世界遺産学習の方向性が見えてきました。そこで「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」をスローガンに、具体的な取組を始めていきました。

長友 生まれ育ったところは、誰でも懐かしさを感じるけれども、誇れるということになれば、そこをさらに良くしていこうという芽生えになると思います。

本学は、世界遺産学習や文化遺産学習を

ESDの切り口の一つとして位置づけるというスタンスでこれまで協力させていただいてます。実践で色々と聞かせていただき、こちらにも刺激を受けました。世界遺産学習を、日本の中で真正面に高く掲げることができるのは、やはり奈良だろうと思っています。

中室 私自身、奈良で生まれて奈良で育っています。子どものころは、祖父に連れられておん祭を見に行ったり、お水取りや山焼き、近所の寺社のお祭りなど、いろいろな行事を見に行ったりしました。そして、機会あるごとにその行事のことや奈良に伝わる民話や伝承などを教えてもらったものでした。しかし、今ではそういったことを話すことができる大人が少なくなっているように思います。親子で奈良の伝統行事や地域のお祭りに出かけることもなくなっているのではないのでしょうか。

長友 4、5年前に、本学の協定校である西安外国語大学で、日本の文化財の講義をしました。そのとき大学の近くにあるお地蔵さんの写真を見せながら、古い文化財だけでなくそういったものも伝統として生きているという話をしました。奈良市内の小学校で、それと同じ着想でお地蔵さんを調べ、町のおじいちゃんやおばあちゃんに話を聞くという取組を行っているところがあります。

世界遺産学習のサブテーマとしてそういった地域遺産学習の取組を組み入れると、世界遺産がない地域の教育委員会や学校も参

加できるようになり、世界遺産学習がより広がっていくのではないのでしょうか。

中室 そうですね。「世界遺産があるから世界遺産学習ができる。」という声をよく耳にします。しかし、そうではなくて、子どもが自分の身近にある文化や歴史、伝統を、誰が、どのようにして守り伝えてきたのかを知り、その町で生まれ、育ち、教育を受けてきたということが自らのアイデンティティを確立していくことにつながっていけばいいなと思っています。実際、奈良教育大学と一緒に組織している世界遺産学習連絡協議会には、橿原市や桜井市、香芝市、安堵町のように世界遺産のない市町村も加盟していただいております。世界遺産学習を推進してくださっています。

将来、子ども達が大人になり、世界に出ていった時に、自分の国はどのような国で、どのような考え方をしているのかということをしちゃんと話すことができないと、文化も価値観も違う人と交流できないと思います。単に英語が上手とか ICT の機器が使えるとかいうことではないと思います。そういうことができる力を持った日本人こそが、グローバルな社会をたくましく生き抜いていけるのではないのでしょうか。そのために、私達は義務教育の中で、自分の育った所や今生きている所を大事に思う心を育てていきたいと思っています。それが世界遺産学習で一番大切にしていることです。



共に質の向上を図るべく、さらなる連携協働を進めたい。



長友 そのとおりです。英語や ICT 活用能力はテクニックであって、それを使って何を伝えるのが大事なわけです。自分の住む所から外に出て、外から見てみた時に、こんな良い所や特色がある、また他の所のものを見て、あれはうちにはない、あれはいいよねということが理解できるようになると、グローバルな思考法が身に付いてくるんだろうと思います。

中室 私も、これから子どもたちには、特にそこを身に付けてもらいたいと考えています。

長友 大学では、他府県からもたくさんの学生が来ていますので、文化遺産の他に環境や防災なども ESD の切り口の一つとして考えています。例えば、東日本大震災の後、学生達が誰にも指示されずに、駅前で募金活動をしました。現地にボランティアに行きたいという学生も、何人も出てきました。ユネスコスクールである宮城教育大学が窓口となり、被災地の学校で教育支援を行う体制を整えてくださって、これまで9次に亘って学生を派遣しています。ESD という視点で文化遺産学習や環境問題に取り組む場合、主観的な意志からではなく、何が必要とされているのか、将来はどうかということを考えながら、活動する必要があります。子どもを対象とするのであれば、どういう大人になってもらいたいかを考えながら活動することが大事です。大人になったときも何か行動している、そういうことができればいいと思います。

中室 そうですね。最終的には文化や伝統だけでなく、自然や環境、命、人権などもしっかり考えていく必要がありますが、世界遺産学習ではこの奈良にある自分達の町の良さや歴史をしっかり学び、それらを守り受け継いできた人々の思いや営みを学ぶことから始めるのです。私達は、義務教育だけでなく幼児教育も担当していますが、素晴らしいものを受け継いできた人々の思いや願いは、わか

りやすい言葉で説明すれば、小さな子どもでも理解します。だから、奈良市では幼稚園から世界遺産学習に取り組んでいます。それを義務教育にしっかりとつないでいきたいと思います。そして、それが高校、大学へとつながっていってくればと願っています。

この取組を広げていくためには、学校教育とともに家庭の役割も重要です。先ほども述べましたが、今のお父さん、お母さんは、忙しくてなかなか地域の行事に子どもと一緒に出かける機会が少ないようです。私達が育った時代は高度経済成長期でしたが、日々の生活は、もう少しゆっくりと流れていたように思います。だから、私が子どもの時にしてもらったことと同じことを求めても無理なのでしょうが、子どもが学校で学んだ世界遺産学習が家庭で話題になり、じゃあ今度一緒に行ってみようかとなればいいなと思っています。

長友 私は、本学に勤めてもう40年になり、奈良のことはかなりわかっていますが、生まれ育った所ではありません。保護者の方も、今住んでいる所が生まれ育った所ではない方が多いでしょうから、保護者にも自分達が住んでいる町にはこういう歴史があるんだということを学んでもらったり、行事に参加してもらったりすると、それが子どもに波及するかもしれませんね。

—— 小中学生の世界遺産学習は教育委員会にお任せし、大人の世界遺産学習は大学が公開講座で引き継いで行うということで、世界遺産学習を通じて、教育委員会と大学が同じフィールドに立つことができます。ウィンウィンの関係になれる素材ですね。

学生に、学校や地域の中にもっと入ってもらいたい

—— スクールサポートについては、学生

世界遺産学習

本学は、昨年12月22日に、文部科学省や奈良市教育委員会、世界遺産学習連絡協議会、奈良国立博物館と共に、第4回世界遺産学習全国サミット in ならを開催しました。このサミットは、世界遺産学習（世界遺産や身近にある文化遺産や自然環境等を通して地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、持続可能な社会の担い手としての意欲や態度を養うことを目指す）や ESD に関する発表や優れた実践の交流を通して、教員研修や市民への啓発の機会とすると共に、全国に発信し、普及を図ることを目的としています。

また、11月から1月にかけて、ユネスコスクール研修会として、世界遺産教育講演会を3回開催しました。それぞれ世界遺産学習や ESD に関する取り組みを積極的に行っている方を講師に迎え、講演やグループディスカッションなどを行いました。本学が実施している、学生、大学院生、教職大学院生、地域の教員の四者が互いに協力しあう「テトラモデル」を実践し、意見交流することができました。



に学びの機会を与えていただいております。非常にお世話になっています。情勢の変化も踏まえ、今後どのように展開していくでしょうか。

中室 スクールサポート制度の導入当時、私は学校教育課長を務めていました。奈良教育大学と話をさせていただいたことをきっかけに、また、当時の市長からも、子どもや学校現場を支援する新しい制度を作ることができないかという話があり、この制度を導入しました。平成16年から実施し、丸10年になります。

当手を振り返りますと、現場には「もし事故が起こったら、どうしよう。」といった心配の声がありました。しかし、新規採用が非常に少なかった時代でしたので、若い学生さんが休憩時間に子どもと一緒に遊ぶことで学校に活気が出たり、学校の先生方が次代の教育現場を担う教員志望の学生さんを育てていくという意識を持つようになったりと、実際に制度が動き出すにつれてその効果も見え始め、もっとスクールサポートを配置して欲しいと校長先生が要望してくるようになりました。学校もサポートに入る学生さんも、制度の趣旨を理解してくれて、上手くマッチングできたんだと思っています。双方にとって良い制度が定着したのではないのでしょうか。

長友 学生が学校でお邪魔になり、先生方の負担を増やすばかりではどうにもなりません。学校の方でもスクールサポートが来てくれて助かるという状況になってきたのは、私達としても大変うれしいお話です。教育委員会と学校現場の努力のお蔭だと思っています。

今の学生は、学習したことを現場で実践する力が減っているように思います。学習したことを現場体験が結びついてこない。教育実習のようにプログラム化された現場ではなく、予想しなかった場面に遭遇する機会が多い日常の学校に行き、見聞きして学習させてもらうことは、そのような力をつける良い機会になります。

ります。

本学では、平成20年に文部科学省の補助金をいただき、東京学芸大学が中心となって国立3大学と私立3大学で教育支援人材育成事業を始めました。補助金終了の3年後に、一般社団法人として教育支援人材育成協会を立ち上げ継続して取り組んでいます。現在18大学が加盟しています。スクールサポーター養成も教育支援人材育成の一環です。講習や実習など一連のプログラムを修了すれば、スクールサポーターとして認証しています。プログラムでは、奈良市教育委員会が実施されているスクールサポーターのための講習も取り入れています。ここは、連携以上の協働作業になっていると思います。また、本学の学生だけでなく、他大学の学生や社会人にもオープンにしています。

認証を受けた学生たちは、子どもが好きというだけでは教員は務まらないということをよくわかった上で現場に行きますので、現場で歓迎していただけるのではないのでしょうか。現場で実際に子ども達とふれあひながら、先生方の仕事を目の当たりにし、教員の仕事について体で覚えていくということが、重要だと思います。体で覚えた事を大学で頭を使っもう一度整理する、そうすることで卒業後に現場に行ったときに、即戦力となる力のある程度身に付けられるのではないかと考えています。

期待に応えられるような学生を、これからも派遣していきたいと思っています。

中室 大学の方でも、そこまで熱を入れて取り組んでいただき、ありがたく思います。私達が思っていることと、大学でされていることが合致しているからこそ、現場から更なる配置を求める声が出るんだと思います。

長友 大学としては、スクールサポーターをもう少しきちんと位置づけたいと考えています。教育実習と異なり、子ども達が身構えて

組織と組織での
結びつきを深めていく
ことができれば。



スクールサポート

本学は、奈良市教育委員会と「幼稚園・小学校・中学校への学校教育活動支援事業（スクールサポート）と相互の教育支援・充実」に関する連携協定を締結しています。（平成16年6月締結）

これにより、奈良市内の幼稚園・小学校・中学校に、学生を「スクールサポーター」として派遣し、保育補助および教科に関する補助、学校行事に関する指導補助、安全管理・確保に関する補助、クラブ活動・部活動補助等、教員の下でさまざまな教育活動を行っています。

平成24年度実績では、幼稚園29人、小学校80人、中学校27人の学生が活動しました。

また、「スクールサポート研修・認証制度」を整備しており、活動開始前に基本的な心構え等を学んだり、活動中や活動後に、現場で経験したことを振り返ったり、他の学生と共有したりする機会も設けています。受講した研修に応じて、「スクールサポーター2級」及び「スクールサポーター1級」の認証も行っています。

●スクールサポート <http://www.nara-edu.ac.jp/OCPESS/schoolsupport.html>



いない日常の現場で、教員の仕事を理解していく。このことは、これから大学で教員を養成していくにあたって、非常に大事なポイントになると思います。本学は教員養成という目的の大学ですから、一般学部で教員免許を取得した人達よりも、教員という仕事を理解している卒業生を送り出したいのです。

本学では、大学のミッションを1年かけて定義直し、教員養成高度化を検討しています。一昨年8月28日の中央教育審議会答申では、教員は医師と同様、高度な専門職であると明確に位置づけられました。教員は教科を教えるだけでなく、子どもの気持ち、保護者の気持ち、チームとして働く同僚の気持ちを推し量り、それに対応できることが重要です。一言でいうと教科指導力とこども理解力、協調性です。これが教員として大事な力ではないかと私は思います。

人は屈辱では動きませんから、学校でチームとして働いている教員間の気持ちの通じ合いや協働する力を、スクールサポートを通じて学生が感じ取ることが、学生の成長として大きいと思います。教科を教える力は、大学の中で身につけることができますが、実際に教員になったときに必要な大事な力は、学校現場でないとつけられない。その部分をスクールサポート活動が担っていると思います。

中室 最終的には、学長が言われたように、教育は人なりということだと思います。人をどう育てるかということになると、奈良教育大学と我々が一緒になって上手くやっていければいいなあと思います。今、奈良市では地域と学校の関係を強め、地域と連携協働して子どもを育てていこうとしています。その中でも、学生さんが入ってきてくれればいいなあと思うことがありますね。

——奈良市では、放課後子ども教室推進事業や地域で決める学校予算事業などの取組をされていますが、このような取組にス

クールサポーターが関わっていくということも考えられるのでしょうか。

中室 平成20年に文部科学省から学校支援地域本部事業の委託先として打診があったときに、全ての中学校区で引き受けて進めることになりました。お蔭さまで、今では22の全ての中学校区で積極的に学校との連携を進めていただいています。学校と地域をつなぐ地域コーディネーターは300人を超え、地域ボランティアとして登録していただいている方は2500人を超えています。このように学校と地域が一緒になって活動しているところに、学生さんにも入ってもらえるような仕組みを、今日このように学長とお話したことをきっかけに、新たな制度として作ることができればと考えています。

長友 奈良市立東市小学校の「東市日本一プロジェクト」が4年目を迎えています。ここでは、地域の方、保護者の方、本学の学生が、学校と一緒に子どもたちの教育のお手伝いをしていますが、これが一つの典型かと思います。

また曾爾村では、本学理数教育研究センターが、理数を中心に毎年サマースクールとウィンタースクールを開催しています。この活動に参加する学生は、非常に力をつけてきています。教員がお膳立てして参加させるのではなく、最初の企画段階から教材作りまで学生が考え、行動します。教員は指導をしますが、基本は学生の発想で組み立てて実践して、後で振り返るのです。私も現地に行きましたが、大学で授業を受けている時とは違った、目の輝きが学生に見られました。現地の小中学校の先生方にも喜んでいただいています。このようなことも、奈良市内の小中学校とも一緒にできれば、ウィンウィンの関係になれるのではないかと思います。

中室 地域で決める学校予算事業について

は、実施して4年が経ちました。元々この事業は、子どもたちの教育活動の充実を図るとともに、地域の教育力の再生と地域コミュニティの活性化を進めることを目的にして始まったものです。最初の頃は、地域の方が学校を支援するといっても、環境整備が中心でした。それが今では、教科学習の支援までしていただいています。

先日、ある小学校の理科の授業で、担任ではとてもそこまでは準備できないというようなアイデアあふれる実験用教材を作ってくださり、担任と一緒に授業をしていただいた方がおられました。このように、今は団塊の世代の人がリタイアし、地域の中には幅広い知識や価値観、技術を持った方がおられます。外国で長い間生活した方や、専門職として技術を積み上げてこられた方もいます。このような方々に学校の中に入っていただき、地域の教育力を学校に取り入れ、子ども達が多様な価値観に出会い、多くの大人と触れ合う場面をたくさん作るということが大事だと思います。教員を目指す学生さんにも同じことが言えるのではないのでしょうか。

先ほど学長が言われたように、プログラム化された教育実習や実践での対応力の低下、チームワークや協働の重要性ということを考えたときに、学生さんも地域の中に入り、多様な人と一緒に活動していくということは、とても大切なことだと思います。このようなことが仕組みとしてできないか、と考えています。地域も若い力を必要としています。奈良市が行っている地域連携の強みを奈良教育大学に提供することができれば、学生さんに力をつけてもらうこともできますので、双方のニーズがマッチするのではないかと思います。

長友 そうですね。これからは、色々な個性を持った人達が集まり、チームとして何かをするときに、自分のアイデンティティを持ちつつきちんとコーディネートできる力が、必要になってくると思います。そういう意味でも、大学内

東市・日本一・プロジェクト(TNP)

本学から自転車で数分のところにある奈良市立東市小学校では、学校と地域の方々そして本学の学生が世代を超えて協力し、東市小学校を日本一の小学校にしようと取り組んでいます。

年に一度の「東市まるごと子ども合宿」(通学合宿)や毎週水曜日の放課後に継続的に実施している放課後子ども教室「まなびーや」など、さまざまな企画が行われています。この活動にあたっては、学生が、学校や地域の方々の補助として参加するのではなく、その企画段階から対等の立場で参加し、意見を交わしながら企画運営しています。

学生は、活動を通じてさまざまな世代や立場の方々とは関わることができ、コミュニケーション能力の向上や視野の拡大などの変化を感じているようです。

●放課後子ども教室「まなびーや」

<http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/TNP.html>



の友人関係や部活内での関係から一歩踏み出して、年齢の異なる教員や地域の方がいる学校現場で活動していくことが、とても大事なのだと思います。

ウィンウィンの関係で お互いの質向上を図る

—— 教育現場から見て、奈良教育大学には、どのようなことを期待されているでしょうか。

中室 一つは、今学長もおっしゃったように、多様な価値観に触れて、幅広い人間性と柔軟な対応力を持った教員を育成していったらいい、ということです。

我々が教育を受けてきた時代は、答えや行き先が見えており、そこへ向かって求められたことを一生懸命やっていけば幸せに手が届きました。しかし、これからの時代を生きていく子ども達は、先が見えず正解のない、大変不透明な時代を生きていかなければなりません。そのためには、しっかりと考える力や他人とコラボレーションしたりコミュニケーションを取ったりする力、そして最適な答えを見つけ出していく力を身に付けたいといえます。そして何より、自分自身の立ち位置、つまりしっかりとアイデンティティを確立していく必要があると思います。指示されたことを正確に、素早く行うことが重要だった旧来の教育観で子どもを育てても、世界に出たときに通用しないと思います。教員も同様で、指示されたことしかできない先生では、次の世代を担う教育は行えません。奈良教育大学の学生さんには、ぜひ豊かな人間性、魅力ある人間性と柔軟な対応力や行動力を持って学校現場に巣立って行ってほしいと願っています。

それからもう一つ。これは大変期待していることですし、ぜひとも進めていくことができればと思っているのですが、奈良教育大学とは組織としての連携を深めていくことができればと考えています。これまでも、大学の先生方には世界遺産学習やスクールサポート事業をはじめとして、本市の教育ビジョンや教育政策の指導助言、教職員研修や学校支援など、さまざまな事業に関わっていただいておりますが、これからは、先生お一人お一人とのつながりだけではなく、奈良教育大学と奈良市教育委員会という組織と組織での結びつきを深めていくことができればと考えています。その一つが、先ほど述べた地域と学校との連携の輪の中に大学も加わる、というものです。地域と学校の連携については、本市の大きな特色です。奈良教育大学が地域に根ざした大学として、ぜひ私達の取組の中



に深く入ってきていただけるような仕組みをつくっていくことができればと考えています。

長友 一昨年の11月頃から10ヶ月ほどかけ、文部科学省とやりとりしながら、ミッション（大学の使命、社会的役割）を再度定義しました。

本学の入学者は、奈良県出身者が25%前後、大阪府出身者もそれと同じくらいです。そして、兵庫県と京都府出身者をプラスすると70%くらいで、その他が全国から来るわけですが、本学の教員養成としては、奈良県に軸足を置いて進めていくというのをミッションの最初に掲げています。また、研究という点では、近畿・全国を視野に置き、教員養成の向上に寄与していこうというのが、基本的なスタンスです。また、今回再定義したミッションでは、教育委員会や学校現場との連携強化を打ち出しています。先ほどからお話していますような実践的指導力や課題を明確に自分で見つけ、課題探究型の学びを続ける力、現職になっても自分で学び続ける力を身に付けた教員の養成を実現するためには、教育委員会や学校現場との連携協働が不可欠です。

本学では、学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける次世代教員の養成を目指して、昨年度から「『学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける』教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト」（「学ぶ喜び」プロジェクト）に取り組んでおり、次年度も継続して取り組みます。このプロジェクトは、世界遺産学習やスクールサポート、東市・日本一・プロジェクト、東北教育復興支援、十津川道普請などさまざまな事業を含め、附属学校園も一緒になってESDの理念をベースに置きながら行っていますが、大分実質化してきました。

課題探究型の学習ということと言えますと、大学生こそ自ら課題を見つけて学ぶべきなのですが、教えてもらうという勉強方法が身に付いてしまっていると、なかなか自ら学ぶというのは難しいようです。そういうことができるような学生に育てるために、現在本学では教員養成高度化の検討を進めています。教育の不易の部分をおさえながら、実践部分を増やしたり、振り返りの作業を増やしたりすることを考えています。教育学部は2年前に改革しましたので、今回は特に大学院（修士課程と教職大学院）を中心に改革していきます。

また、2年後からの第3期中期目標期間に向けて目標計画を検討しているところです。その中で、今お話ししたようなことを取り込んだ目標と計画を作っていくことになります。その時のポイントとなるのが、現場での実践だと考えています。実践しながら、そこで得たことを自分で理論化し、次の実践に入るといったスパイラルができるような仕組みを作りたいと考えています。その取組の一つが、スクールサポートであり、学生が学校運営に入っていく仕組みなのです。場面、場面で奈良市教育委員会とコラボさせていただくということを前提にした我々の計画です。ですから、先ほどおっしゃっていただいたような、奈良市教育委員会と奈良教育大学の組織と組織の連携協働をシステム化していくことが、本学の教員養成の質を高めていくことにつながると考えています。

大学と教育委員会と一緒に地域の教育を考える、と同時に教育委員会には大学の教員養成に知恵をお貸しいただく。そういうウィンウィンの関係で、共に質の向上を図るべく、これからさらなる連携協働を進めて行きたいと思います。





自然環境 教育センターの取組

本学の自然環境教育センターは、実習園、実習林を備えており、教師を目指す学生の教育研究の場であるとともに、近隣住民の方々にも広く利用していただいています。

実習園、実習林での多岐にわたる取組を紹介します。

<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

はじめに

自然環境教育センター長 ^{とり い はる み} 鳥居 春己

自然環境教育センターは、学生や社会人、子どもから大人までを対象に、自然環境教育を推進することを目的とした施設で、奈良実習園と奥吉野実習林から成り立っています。かつては、農業免許を取得するための農業と林業の授業、実習、研究施設として整備されていました。農業免許が廃止されたことや、近年の子どもの自然離れ、野外活動の減少、自然環境教育の必要性が叫ばれるようになったことから、平成6年に省令施設として農場と演習林は自然環境に関わる教育・研究の場として改組、名称変更され、現在に至っています。そのため、教員養成系大学には珍しく、奈良教育大学は実習園と実習林を備えているのです。

ただ、それらの施設の存在は授業やゼミなどで利用する

機会のない学生には、余り知られていません。実習園は大学の南1kmくらいで、附属幼稚園児でも歩いてイモ掘りに行ける距離です。しかし、実習林は吉野郡大塔村（現在は五條市に編入）にあり、車でも2時間かかります。共に学生は自由に使える施設となっていますので、在学中に一度は訪れてください。

また、自然環境教育センターでは研究部員制度を設けています。学長裁量経費でのミミズプロジェクトなどの研究活動にも協力していただいております。自然観察や環境教育に興味・関心のある方であれば、特別な資格は必要としません。卒業してからも、何か研究を続けたいと思う学生さんはご参加ください。

奈良実習園

奈良実習園は、栽培や生物、自然に関する授業、実験、実習などに供するとともに、広く学校（園）における自然体験の場となっています。

教師をめざす学生にとって、小・中・高等学校どの段階の学校に勤めるにしても、作物（植物）を育てることと無関係ではられません。子どもと一緒に学級園や窓下花壇を作り、生活科や理科の授業での栽培、社会科で日本の農業を教える時、技術・家庭科でも栽培や食物を学習する時など、直接・間接にかかわっています。さらに、全教科がかかわる「環境学習」にも、実習園はさまざまな教材を提供することができます。このような背景から、教育学部が実習園を持つ意味は大きいと言えます。植物の育成や収穫といった農作業を通して、農業を取り巻く環境や、私たちの食料にかかわる問題など、より広い視野で考えを深めることのできる格好の場となるのではないのでしょうか。

また、附属学校（園）はもとより、近隣の保育所、幼稚園等にも広く施設を開放しています。毎年多くの園児がジャガイモ掘りやサツマイモ掘りを楽しんでます。公開講座「親子米作り教室」では、親子で田植え、稲刈り、餅つきを体験してもらっています。また、市民に「畑で汗を流しませんか」という公開講座も開講し、手はかかるし、見栄え

は悪いのですが、無農薬の野菜を栽培してもらっています。

近年は、留学生にも畑や田圃を開放しています。特に、欧米からの留学生には、田圃の泥に足を浸しての田植えや稲刈り、餅つきも貴重な経験となっているようです。米作りは日本文化の基礎となっていますが、それはアジア太平洋地域に共通した文化でもあり、地域に根ざした米作り文化でもあります。そのため、ユネスコスクールはESDという視点から米作りを共通テーマとしてネットワーク化に取り組んでいます。ユネスコスクールに加盟している本学にとって実習園は重要な存在だと言えるでしょう。

Voice



学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース
家庭科教育専修 4年生
わたなべ はるか
渡邊 遥華さん
私立天理高等学校出身

実 習園では、なっきょん食育塾の活動で「大和まな」の栽培、年末には餅つきを体験しました。また、実習園で栽培した餅米のわらを頂き、江戸時代の町家が残る今井町でしめ縄づくりを行い、そのしめ縄を実習園で飾っていただきました。このように、実習園において、多くの生活文化体験を経験させていただきました。自然を相手にする厳しい作業や、昔ながらの生活文化を実際に経験することで、自然の恵みのありがたさや日本の生活文化の良さを全身で感じました。さらに、実習園の方々や先生方、一緒に作業をした学生との出会いが、自分自身の視野を広げ、一步成長した自分になることができたように思います。



奈良実習園



幼児と環境・ジャガイモ収穫



田植えをする留学生



公開講座・餅つき風景

奥吉野実習林



教育研究棟(左)と宿泊棟(右)

奥吉野実習林は奥吉野の山岳地域にあり、東西約1,500m、南北約1,200mの175.9haの広大な面積を有しています。実習林の施設は標高400mにありますが、最高峰(清水峰)は1,186.2mで、標高差は800mあります。一部にスギ・ヒノキの人工林はありますが、大半は自然林がよく発達しており、低山帯から山地帯までの豊富な植物相と動物相を擁しています。特に、山頂にはブナ林が広がり、学術的にも大変貴重なもので、自然観察や野外活動のフィールドとして優れた環境であると言えるでしょう。

我が国では、普段の生活では野外活動が少なくなっていますが、若者や子どもたちが親しく自然に接し、自然における経験や自然に学ぶことの重要性を再認識したいものです。

こうした状況の中、奥吉野実習林は大学・附属学校はもとより、地域社会における野外教育や自然教育のための中核的な施設として、一般の人々に広く利用されることを目的としています。そこでは、教科(生活)のキャンプや野外実習の授業だけでなく、教職員や学生の活動拠点としても利用されています。また、野外生活を体験する公開講座「夏の森を親子で楽しもう」の実施や、近隣の大学や高校の実習など、教育研究活動及びこれらの地域社会への還元の役割を担っています。



Voice



学校教育教員養成課程
理数生活科学コース
理科教育専修 4年生
むらた さや
村田 沙耶さん
大阪府立鳳高等学校出身

奥吉野実習林へは、生活科のキャンプ、自然の中の理科教育、ゼミ合宿などで訪れました。テントを張って、自炊して、山に登って、川で遊んで、星をみて…ここに行くことやりたいことがたくさんあります。ここにある自然と、ここに集まる人々からさまざまなことを学びました。私が大学に入って、自然って面白いと初めて感じたのはこの場所でした。一人ではできないことがあると知り、仲間と共に学び協力し合うことの大切さを体感しました。また、豊かさとは何かを考えるようになりました。奥吉野実習林は、教室ではできない体験ができ、新たな視点が生まれる場所だと思います。



奥吉野実習林



野外実習での毎木調査



親子で夕食作り



野外実習で岩石採取



シュロの葉でバツタ作り



生活キャンプでテント設置

Point

自然環境教育センターでの授業

実習園

栽培実習・栽培演習・教科(生活)・幼児と環境(I・II)・社会科教育演習などの授業を通して、さまざまな作物を育てる技術や指導技術を学びます。

実習林

生活(集中:キャンプ)・野外実習—自然の中での理科教育—では、実習林でのキャンプと野外活動を通して、自然環境の厳しさや自然そのものをいろいろな角度から学びます。

自然環境教育センターの展望

私たちは自然環境に大きく依存しているにもかかわらず、生活は都市を中心としており、日常生活の中で自然とのかかわりを感じることは困難です。そのため、有意義な自然環境教育が必要です。施設容量に限りがあるために十分実施できているとはいえませんが、奈良実習園と奥吉野実習林は、農作業や野外活動という実体験を通じて自然の恵みや厳しさを体験できる施設であり、これからも本学の学生のみならず一般市民に対しても実体験を通じた自然環境教育を投げかけてゆきたいと考えています。さらに、幸い建物付近は無事だったのですが、平成23年9月に実習林内で起こった土砂災害を契機に、以前とは異なる在り方も模索しつつあります。私たちが生きてゆくうえで災害は避けて通れません。私たちが災害を止めるのは難しいですが、うまく付き合っていく必要があります。山間地などの教員となる可能性のある奈良教育大学の学生にとって、今後は災害にも目を向けていく必要があると考えます。そのため、不幸な災害ではあ

りましたが、それに向き合って新たな展開を模索しています。

Voice



研究部員
はなき かよこ
花木 佳代子さん

自 然環境教育センターはとてもオープンなところ。私のような少し自然(特に生き物)に興味のある主婦でも研究部員として受け入れていただきました。実習林での親子キャンプの参加に始まり(このとき息子は4歳でした)、実習園での米作り、餅つき、畑の講座、それを通じての自然環境教育センターの人達との交流は生活の一部と言えるものとなりました。これからも自然に関わる活動をしていきたいと思っています。自然に興味のある方は、気軽にセンターの講座に参加されると世界が広がるかも…おすすめです。



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

紐の絡み方の研究

— 結び目理論 —

数学の研究とは

数学の問題には必ず解答があると思いませんか？学校数学（中高で学ぶ数学）では答えのあるものしか取り扱わないことが多いですが、現実には難しい数学の問題がたくさんあります。学校数学をちょっと飛び出した所にも、数学の難問は数多くあります。例えば、中学校で三平方（ピタゴラス）の定理「角Aが直角である直角三角形ABCがあったら、 $AB^2 + AC^2 = BC^2$ という関係が成り立つ」を習います。そし

て、代表的なものとして、辺の長さが3、4、5の直角三角形があります。他にもすべての辺の長さが自然数になる直角三角形があり、そのような自然数の組はピタゴラス数といいます。では、

$a^3 + b^3 = c^3$ をみたす自然数の組は存在するでしょうか。

より一般に3が4や5になった場合はどうでしょうか。この問題をフェルマーは考え、このような組は存在しないと証明なしでいいました。そこで、証明しようと多くの数学者が挑み、360年経ってようやく証明することができました。また、素数の

中で、3と5、11と13のように差が2の素数の組を双子の素数といいます。双子の素数は無限に存在しそうな気がします。しかし、現時点では、このような双子の素数が無限組存在するかはわかっていません。このように問題は中学生にわかって、証明するのはとても難しいものがあります。

数学の研究では、難問を解くことや新たな問題を考えることがとても大切です。また、それは学校数学を学ぶ上でも大切だと思います。自分が解いた問題から新たな問題を創りだしてみるとよいでしょう。



花木研究室 上の段左から中村祐輔さん(教育学部学校教員養成課程 理数・生活科学コース 4回生)、折本菜絵さん(教育学部総合教育課程 科学情報コース 4回生)、上地澄人さん(教育学部学校教員養成課程 理数・生活科学コース 4回生)、庄司雅規さん(教育学部学校教員養成課程 理数・生活科学コース 4回生)、花木准教授、井手内彩さん(教育学部総合教育課程 科学情報コース 4回生)



結び目理論とは

私が研究している結び目理論について紹介します。写真1のようにコードが絡んでしまっているものは、結び目と考えることができます。左側に器具がつながれており、右側は延長コードにつながれています。

この状況で、器具を動かさず、コードを抜くことなく、コードをほどくことができるでしょうか？

それを図で表すと、図1のようになります。(黒丸は器具や延長コードにつながれているのでそれを動かしたりそこを飛び越えたりすることなく)ほどけることがわかります。このとき、コードの長さはあまり気にならないので、それを無視して考えます。また、コードは自由に動くので、結び目理論では、つながり方だけを考えることになります。そして、つながり方が同じものを同じ形とみな

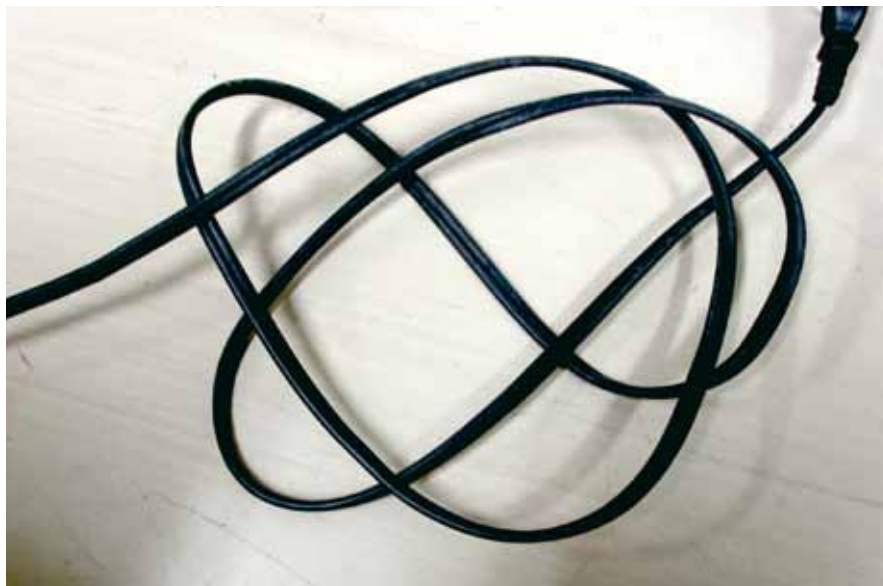


写真1

します。結び目理論では、中学校で学習した合同や相似より、もっと多くの図形を同じものとみなすわけです。コードを抜いてしまうと、必ずほどくことができるので、結び目理論では、一般にひとつの輪がどう絡んでいるかを考察します(図2)。

図2は一見異なる絡み方をしているように見えますが、実は同じ結び目であることがわかります(図3)。結び目が同じであることは、変形過程を表せば示すことができます。しかし、3時間頑張っても変形を考えたけれども同じ形にできなかったからと

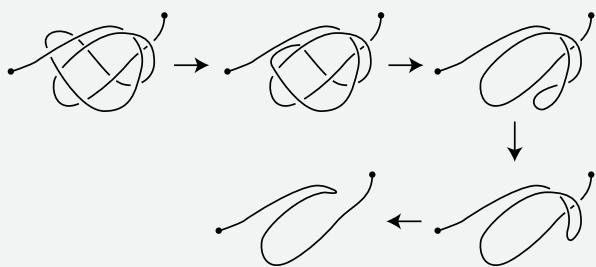


図1

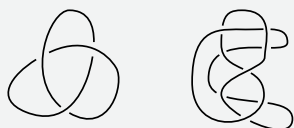


図2

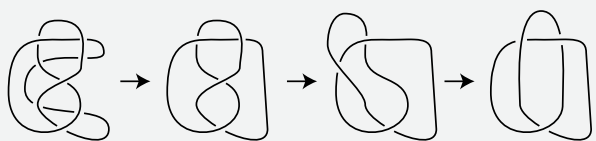


図3

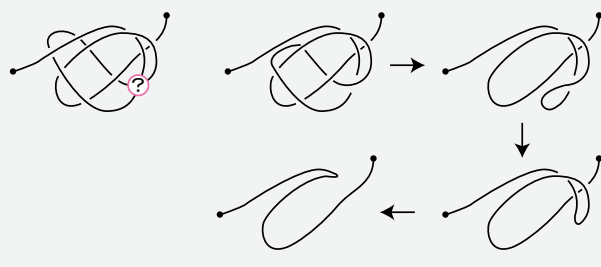


図4

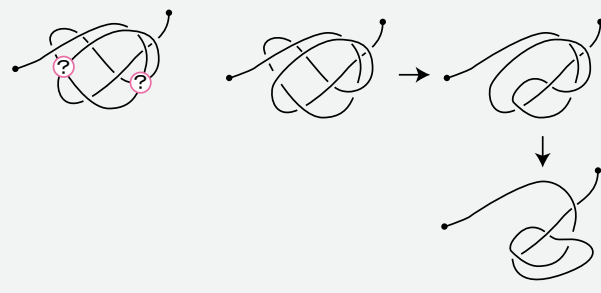


図5



いて、これらの結び目は同じでないということはいえませんが、2つの三角形が合同かどうかであれば、3辺の長さをそれぞれ測ればわかります。しかし、結び目では辺の長さや角の大きさは自由に動いてしまうため、この方法は使えません。結び目理論の難しさはここにあります。同じでないことを示す道具が必要になります。

私の研究

写真では、一部の交点の上下がはっきりしないことがあります。例えば、写真1で図4のように1つの交点の上下がわからない場合を考えましょう。わからない交点の上下は2通り考えられ、一方は図1で考察したもので、もう一方は図4にあるようなものになり、結局、ほどけることがわかります。このように、一部の交点の上下の情報がわからなくても、ほどけると判断がつく場合があります。しかし、図5のように2つの交点の上下がわからない場合はどうでしょうか。図5の真ん中にあるような上下であると、ほどくことができないことがわかります。つまり、図5の場合は、一部の交点の上下がわからないので、ほどけるかどうかはわからないことになります。そこで次の問題を考えました。

「すべての交点の上下がわからないとき、どこの交点のどのような上下がわかっているれば、ほどけると判断できるのか」

いくつか図をかき考察し、ある予想を立て、半年後にやっと解くことができました。そして、研究を進めると、また新たな問題が思い浮かび、現在はこの問題の解決に取り組んでいます。

DNA の写真を見てインスパイア

DNA の中には結び目になっているものがあり、その写真が撮影さ

れています。しかし、DNA はとても小さいため、写真は鮮明ではありません。それを見て、上下がはっきりしないものがあつたので、この研究が浮かびました。この点が注目され、アメリカの研究者らも私の研究を発展させています。

数学とは何か

紐の絡み方が数学なのかあパズルみたいだなあと思った人がいるかもしれません。多くのものが実は数学として扱えると私は思います。今年の卒業論文では、鏡を使った図形の研究をした学生がいます。10ページの写真の私の手前にある3枚の鏡が垂直に交わったものに、正多面体を映し出すにはどうしたらよいかという研究を行いました。世界のどこかですでに行われているかもしれませんが、学生が自ら考察し、数学を創ろうとしていた点がとてもよかったです。皆さんも新しい数学を探したらよいと思います。

数学はあまり役に立たないものだと思っている人がいるかもしれませんが、結び目理論はDNAの研究や狂牛病の研究とも関連していると云われています。それは結び目理論ができたときには考えられなかったことだと思います。

私は、**数学はインフラ（生活の基盤）のようなもの**だと思っています。例えば、電気のようなものだと思います。電気は電気だけでは役に立ちませんが、電気機器をコンセントに挿せば、明りが点いたりテレビが映ったりパソコンが使えたりします。はじめ、電気の用途は電灯が主だったと思いますが、今では洗濯機、冷暖房、車などなど枚挙に遑がありません。数学にもそういう力があって、後になってどんどん役に立っていくものであり、前もって幅広く強固に作っておく必要があるものであると思います。今後、私の研究が生物学などに応用され、互いに発展していったらよいと思っています。

プロフィール

数学教育講座

はな き りょう
准教授 花 木 良



共著「数学教材としてのグラフ理論」と論文が掲載されている雑誌

専門は、位相幾何学（結び目理論）、数学教育学（教材開発）

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了

博士（理学）

早稲田大学教育・総合科学学術院助手を経て、現職。

日本数学会代議員（地方区代議員）、奈良県立青翔高等学校SSH運営委員など。





ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 伝統文化教育専攻
書道教育専修
(改組前: 総合教育課程
文化財・書道芸術コース 書道芸術専修)

書道

ふくみつ さこん
福光 佐今研究室



作品を批評してもらう



左から森川さん、山本さん、泉さん

教育学部 総合教育課程
文化財・書道芸術コース 4回生

もりかわ ゆきえ
森川 幸恵 さん

奈良県立欽傍高等学校出身

やまもと しおり
山本 詩織 さん

三重県立津西高等学校出身

いずみ なおこ
泉 奈生子 さん

香川県立高松北高等学校出身

From

福光研究室紹介

書道には、漢字や仮名、篆刻などさまざまな分野があります。福光研究室では漢字の研究を行っています。活動としては、主に週に一度集まり、福光教授に作品の批評をしていただくというものです。作品は公募展や教育大展、卒業書作展に向けたもので、半期以上に渡って同じ作品を書き続けることが多いです。自分の作品の批評を受けるだけでなく、同じ研究室の仲間の作品も見ることができるので、非常に勉強になります。

また、教員採用試験の実技対策も行っています。試験本番でどんな課題が出されても対応できるように、基礎から徹底的に学んでいきます。

福光研究室の魅力

福光研究室の魅力の一つとして、作品制作における構成美を学ぶことができます。自分の書いた作品をもとに、作品全体のバランスや文字の形などについて、構成の仕方を丁寧に教えていただくことができ、みんなでより良い作品を目指して頑張っています。

また、それぞれの行や空間に合った文字の配置や書き方を、自分の作品だけでなく他の人の批評を聞くことでも参考にすることができます。作品の雰囲気は人それぞれです。同じ古典をベースにしても書いた人の特徴が出るので、見ていてとても面白く、制作意欲の向上にもつながります。そのそれぞれの個性を生かし、時には先生自らが筆を持ってまとめ方や技法を伝えながら、一人一人に合った指導をしていただけるのも福光研究室の魅力です。

卒業書作展に向けて

私達は、1回生の頃から展覧会などで作品制作を行います。そのなかで卒業書作展に向けて自分に合った書風を見つけていきます。気迫のある字が書きたい、書体の特徴を生かした作品にしたいなど、作品に対する思いが強い個性溢れる作品になります。批評会までの間は、自分が納得するまで作品を何度も書き込みます。講義や部活動にも励みながら作品制作を行うのですが、思うように筆が進まなかったり、前回の作品より良い物が書けなかったりなど、調子が出ない時もあります。そのような時でも、仲間と作品の批評をし合ったり、お互いに励ましあったりしながら泊まり込みで作品錬成を行い、自分が表現したい作品が書けるように常に全力で取り組んでいます。



作品制作の様子



「在学中により多くの現場での経験を」

現在私は、橿原市立光陽中学校で勤務しています。第一学年で担任をしており、数学担当で分掌は生徒指導です。またバスケットボール部顧問をしており、日々生徒たちと共にチーム一丸、奈良県優勝を目指し頑張っています。

奈良教育大学を卒業後、奈良市立三笠中学校で講師を1年間務め、その後新規採用で本校に着任しました。当時の本校はいわゆる「困難校」と呼ばれる学校でした。授業のエスケープ、頭髮関係や校外でのトラブル。次から次へと起こる生徒指導に対応する日々でした。しかし、一つ一つをたくさんの同僚たちと助け合い、生徒と話し合い、保護者をはじめとするたくさんの方々の支援を得て対応するうちに、落ち着いた学校へと変貌していきました。

私はよく生徒に『あの時やっておけばよかった、こうしておけばよかった』ということがないような学校生活を送ろう』と話をします。私の大学生活はまさにそれでした。

私は、教育学部総合教育課程の物質科学専修に入学しました。部活動はギターマンドリンクラブ、またバスケットボールサークルにも入り、そのメンバーで社会人チーム Jackal を作り活動しました。2回生の終わりには、数学の教員になりたいという夢があったので情報数理専修に転専修しました。代数学を専門とされる川崎先生をはじめ、たくさんの先生方にご指導いただき、大変学びの多い学生生活を送ることができました。また4回生からスクールサポートを始め、奈良市立伏見中学校でバスケットボール部の指導と数学の入り込み授業のサポートをしていました。ここでの経験が、教師になるという進路を選んで良かったとより一層感じさせてくれました。

卒業後実際に現場に出てみると、自分なりに教育現場を経験してきたつもりが、現実はとても厳しいものでした。教育のプロとしての自覚を持ち、教科指導の力を伸ばそうと努力するのは素晴らしいことだと思います。しかし私は、まず生徒指導力というのが第一であると考えます。教師と生徒の毅然とした関係の中、生徒一人一人に対する指導力や集団に対する指導力が必要だと思っています。また常に先を見越した「起こる前の生徒指導」という力が要求されます。

自分自身の大学時代を振り返った時、「もっと生徒指導力の身に付く経験をしておくべきだった」と思います。奈良教育大学には自分から動けば、そういった力を身に付ける場がたくさんあります。スクールサポートや教育実習だけでなく、現場での経験やそれらを想定した学習が、奈良教育大学では可能です。ぜひとも、在学中に「大学生のお兄ちゃん」ではなく「教師」という環境で、たくさんのことを学んでほしい。卒業後に、即戦力となれる教師力を、是非とも奈良教育大学で身に付けてください。

橿原市立光陽中学校
第一学年担任
生徒指導部
男子バスケットボール部顧問

はやし みきと
林 幹人さん

(教育学部 総合教育課程 科学情報コース
情報数理専修 平成20年3月卒業)



在学時、ギターマンドリンクラブの定期演奏会



在学時に立ち上げた、バスケサークルのJackal



現在指導中のバスケ部



東京に行った修学旅行にて



道徳の授業にて

奈教のひみつ

学生広報スタッフ
“なつきょん’s CLUB”
企画



授業紹介 ～板書実践指導～

吉川美恵子教授、福光佐今教授、豊田宗児准教授、谷川雅夫准教授

本学では、教養科目から専門科目まで数多くの授業が開講されています。
その中から今回は、学校現場での板書の方法を学ぶ必修科目「板書実践指導」の様子を紹介します。
[授業時間割シラバス検索システム：<http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/KYOUNU/syllabus.htm>]

授業の流れ

第1回

オリエンテーション



大講義室で、実践に入る前に知っておくべき事項を学びます。



電子黒板などの活用事例についても学びます。

第2回

講義

板書構成の基本。大講義室に受講生全員が集まり、教育方法学を専門とする赤沢早人准教授(教育実践開発研究センター)より板書の基本事項の説明を受けます。



壁3面に黒板が設置されている教室で、実際に板書を練習します。

第3回～第7回

講義

大講義室に受講生全員が集まり、「文字の発生と変遷」や「ひらがなやカタカナの誕生」などの文字の成り立ちに関する事項を学びます。そして、それを踏まえて、「漢字の書き方」、「数字の書き方」、「アルファベットの書き方」、「字をうまく書く方法」など実際に字を書くときの注意事項などを学びます。

第8回

実践

この回からは、3つ程度の専修ごとに黒板が設置されている教室にわかれ、実際にチョークと黒板を使って実践的に学びます。この回では、チョークの扱い方の基本を学び、自分の名前と短文を板書します。そして自分の板書を写真撮影して記録に残します。



どんな授業？

2 回生時に開講される必修授業です。

この授業では、教員にとって必要不可欠な技術であり、子どもたちの学習理解にも大きな影響を与える板書技術について学びます。「漢字の基本点画の書き方」や「ひらがなを整えて書く」など実際に文字の書き方に関する授業だけでなく、「ひらがなの誕生とその美」「カタカナの誕生」など文字を書くにあたって知っておくべき事項についても学びます。第 8 回目以降の授業では、実際に黒板とチョークを使い、実践的に学びます。

単に字を上手に書けるようにするだけでなく、黒板上での文字の配置やレイアウトが上手になるよう空間配置能力・板書構成力・板書実践力を身に付けることを目的としています。

このような板書に関する授業が必修授業として行われるのは、全国の大学で本学が初めてです。

● 講義時間:90分

● 大講義室および3面に黒板が設置された教室で行われる。

● 2回生時の必修授業

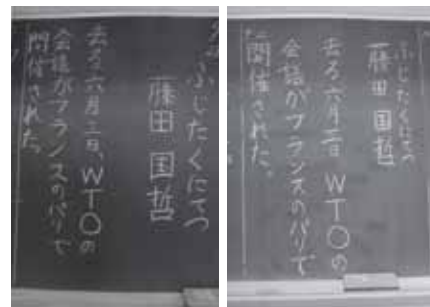
授業の様子や教員のコメント

- ・クラスの半分ずつが板書し、板書していないときは紙に書いて練習する。
- ・ひらがなと漢字、画数の多い漢字と少ない漢字でそれぞれ大きさを調整し、バランスをとるよう注意。
- ・書き順を間違えることがよくある。実際の学校現場では子どもたちはそういうところをよく見ている。また、教員採用試験でもチェックされる場所。
- ・板書がきれいな先生のクラスは、他のクラスと比べてテストの点数が高い。これは奈良県では常識。
- ・「はらい」と「とめ」をきちんと。

- ・黒板消しを使わずに、一発で板書する練習をしてみよう(第13回時)
- ・ここで学んだことを振り返り、自分の癖を直していこう。
- ・この授業だけでなく、自分でも継続して練習する必要がある。
- ・2回生のうちから、板書について意識を持つことで、3回生の教育実習の時に大きく違ってくる。
- ・板書する時の姿勢にも注意すること。板書に自分の体がかぶってしまうと、板書が子どもたちに見えない。

授業を振り返っての感想(学生が授業時に発言したもの)

- ・授業で学んだ文字の成り立ちをきちんと意識して、板書したい。
- ・迅速に板書するのが難しい。
- ・黒板消しを使って何度も書き直せばきれいに書けるが、本当の授業ではあまり消すことができない。そこが難しい。



第8回と第15回の比較
(右が第15回)

藤田さんの板書の比較に対しての教員からのコメント

- ・文字の大きさがきちんと把握されている。
- ・文字の大きさやバランスについて計算できている。



第9回～第13回

実践

書道を専門とする4名の教員が各教室を移動し、毎回それぞれの専門に基づいた実践的な指導が行われます。与えられた課題を板書し、それを教員とTAの大学院生が添削します。個々人の癖などが指摘され、次回以降はその癖を直すよう意識しながら、板書を練習します。

第14回

講義

大講義室に受講生全員が集まり、電子黒板などの電子機器や電子教材の使用について学びます。事前に電子黒板等を用いて模擬授業を行うよう課題が出されており、各自基本的な扱い方は理解した上で、実際の教育現場でそれらをどのように活用することができるのかを考えます。

第15回

実践

各教室にわかれ、第8回の授業時に板書したものと同じように自分の名前と短文を板書し、どのように成長したか自己評価します。また、それを写真撮影して記録に残します。

受講生の声



教育学部
学校教育教員養成課程
教育発達専攻教育学専修
2回生

藤田 国哲 さん
奈良県立高田高等学校出身

私は小さい頃から左利きでもともと字を書くのが苦手で、黒板を使うことにも慣れていなかったもので、最初はこの授業にとても不安を感じていました。しかし授業の中で、単にきれいな文字を書くことだけが板書として重要なのではなく、文字の大きさや配置を考えることやそれらを意識しながら練習を継続していくことが大切だと分かりました。授業では、書体や成り立ちを知ることから実際のチョークを使った練習に至るまで幅広く、どのようにすれば良い板書になるのかを考えながら受講することができました。また自分の板書に対して個別にアドバイスがもらえたので、苦手な文字や癖を意識しながら板書を見直せるようになりました。今まで授業を受ける側でしか見ていなかった板書が、今では「どのようにすれば理解しやすい授業の板書になるのか」と考えるようになっていました。今後は、模擬授業や授業案作成の中でもより良い板書利用をしていきたいと思ひますし、普段の生活から書く字を整えることを意識しながら練習を重ね、今回の授業を今後の教育実習にも生かしていきたいと思ひています。

谷川准教授から 学生へのメッセージ

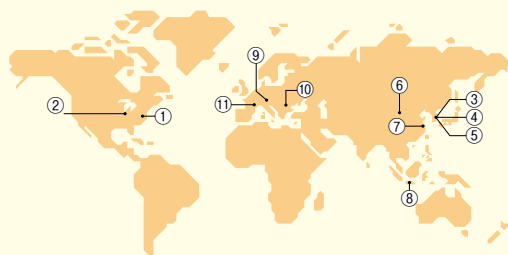


授業では板書構成の基本から始まり、漢字・平がな・片かな・数字・アルファベットの美しい書き方を学び、各教室に分かれて実践し、縦書き・横書きで自由自在に板書できる力を養います。その他に電子黒板を使って模擬授業をする課題も出て、最新の機器にも対応できる力をつけます。

現代において書くことはますます少なくなり、レベルの低下は避けられないことですが、教師の板書は教育現場でなくなることはありません。今までの書き癖を修正し、正しい書き順を学ぶことで子どもの前に堂々と立てるよう指導します。板書の文字に自信を持って教育実習に生かせるように頑張りましょう。



留学生 レポート



- ① ロックヘイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学校
- ④ 公州大学校
- ⑤ 光州教育大学校
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ プカレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学

Interviewee



教育学部 学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース 3回生
徳島県立城ノ内高等学校出身

すぎやま ゆり
杉山 友理さん

セントラルミシガン大学 (アメリカ) (留学期間 2013.8 ~ 2014.5)



アメフトの応援



Cardbord Sled Race



ハロウィン

✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

海外の教育に興味があり、大学に入学する前から大学在学期間中に留学することを決めていました。

✚ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

留学願書申請時に TOEFL スコアが必要になるので、ある程度のスコアが取れるようにそれに向けて勉強していました。

✚ 留学先ではどのような 1 日を過ごしていますか。

平日はだいたい夕方まで授業があり、毎日宿題が各クラスで出されるので、次の日の授業に間に合うように必死にその日中に終わらせています。休日は友達と出かけたり、映画を見たりしています。

✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

アメリカでは本当にいろいろな国の人々が一緒に生活しているということです。お互いに違う文化を認め合い、共に生活することを楽しんでいます。これぞ、国や人種を超えた宝の集まりの場所のように感じます。



ハウスパーティー

✚ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

うれしかったことは、多くの人が日本に興味を持ってくれていて、「こんにちは」や「ありがとう」といった自分が知っている日本語で話しかけてくれることです。特に日本のアニメやドラマをみんなよく見えています。

大変だったことは、こちらに来た当初はみんなが何を話しているのか全く聞き取れず、会話についていくのが難しかったことです。でもみんなとても優しく、会話をリピートするなどして私にも分かるように話してくれます。

✚ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

こちらで今得ているたくさんの新しい発見を生かしながら、何事にも視野を広くもって考え、取り組んでいきたいです。

✚ 在学生、高校生の皆さんに一言。

世界に少しでも興味をもっているあなた! 今がその興味を広げるチャンスです。でも、いざ留学すると考えたら不安になることもいっぱいあると思います。それは分かります。でも、留学するとそれ以上に楽しいことや新しい発見が待っています。1人でも多くの人に勇気を持って、自分のまだ知らない新しい扉を開いて行って欲しいと思います。You can do it!!!





セントラルミシガン大学 (アメリカ)

アメリカミシガン州中央部にある中規模公立大学です。国際交流が積極的に行われており、本学との交流も長く行われています。近隣の川や湖でカヌーなどの水上スポーツが楽しめたり、運動施設が整っていたりと快適な環境が用意されています。



西安外国語大学 (中国)

中国西北部の西安市にある公立外国語大学です。学校改革により、外国語教育の大学から、外国語の特色を生かして人文科学、経済管理学、法律学、理学、教育学などの学科を設立、その教育内容を相互に融合させるという新型の外国語大学に進化を遂げています。



留学生のみんなと一緒にパーティー



楽しいハロウィン仮装パーティー

✚ 留学しようと思ったきっかけは。

もともと日本の文学、風俗習慣や食に興味があったので、一度自分の目で見てみたいと思いました。それに専門も日本語だから、日本人らしい日本語を勉強したかったです。そのとき、ちょうど学校でこのプログラムについて知りました。それをきっかけに日本へ来ました。

✚ 留学する前にどのくらい日本語を勉強していましたか。

西安外国語大学で、学部生として4年間日本語を勉強しました。また、院生として1年間中日翻訳について勉強しました。

✚ 奈良教育大学の学生としてどのような一日を過ごしていますか。

ほぼ日本の学生と同じで、毎日授業へ行ったり、サークルに参加したりなどです。授業では書道や関西弁も学びました。すごく面白いです。先生にも「おおきに」と言いたいです。週末にはよく留学生の友達と一緒に面白いパーティーをします。

✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

驚いたことはいっぱいあります。一番驚いたことは、初めて日本のトイレに入ったとき、おしりを洗うような便器があったことです。うっかりそのボタンを押すと、下からお湯が出てきて、本当にびっくりしました。

Interviewee



西安外国語大学 (中国)

とう 瑛 さん

日本／奈良教育大学 (留学期間 2013.10 ～ 2014.9)



初めてのもちつきショー「私、結構力強い!」

✚ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

留学生のみんなと一緒にいった近江八幡の日帰り旅行です。初めて会席料理を食べました。ちょっと残念なことに量が少なく、食べてもお腹がぺこぺこでした。それから、初めてオリジナルの陶器を作って、初めて船に乗りました。私にとって、マジックのような一日でした。そして、やっぱりみんなと一緒にいることが一番うれしかったです。

✚ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

この一年の留学生活は私にとって大切な経験です。こうやって、日本で暮らして、日本人はどのように話したか、どのような気持ちを込めているか自分の全身で感じています。中国で勉強した日本語とは全然違うので、日本語に対する理解も深くなっています。将来中国で就職するときも役に立つと思います。もし日本で就職ができるならもっと良いと思います。

そして、世界各地からの留学生と友達になって、その国の教育システムや税金の知識も身につけました。おかげ様でいろいろな違う国の言葉で「おはよう」と言うことができます。どうやったら良い人間関係が築けるかも学びました。

✚ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

中国には「百聞は一見に如かず」という古い諺があります。大人になると、迷ったり、悩んだりすることが多いです。学生のうちに、いろんなところへ行って、いろんなイベントに参加して、自分の目で確かめてください。留学生活は本当に一人前の人間になる一番早い方法だと思います。



キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ 奈教生



実習に取り組む中井さん



参加者を指導する川下さん



シンポジウムで発表する後藤田さん

Profile★ プロフィール

大学院 修士課程
教科教育専攻 1回生
かわした ゆういち

川下 優一 さん

教育学部 総合教育課程
科学情報コース 3回生
なか い たかひと

中井 隆仁 さん 和歌山県立向陽高等学校出身

教育学部 総合教育課程
科学情報コース 3回生
ごとう だ ようすけ

後藤田 洋介 さん 大阪市立南高等学校出身

教員の視点を持ちつつ、教科専門性を高める。

理数教育研究センターでは、高度な教科専門性と子どもたちの気持ちに寄り添った指導ができる実践力を兼ね備えた理数教員の養成を目指して、新理数プログラムや大学院理数プログラムを実施しています。また本学は、茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構（KEK）と、研究成果の社会還元及び教育の推進を目的とした連携協定を締結しており、理数教育研究センターが中心となってさまざまな事業に取り組んでいます。

今回は、KEK でのサイエンスキャンプやシンポジウムなどに積極的に参加している3人の学生を紹介します。

高校生のための素粒子サイエンスキャンプ Belle Plus 2013

川下さんは、後藤田さん、中井さんと共に、KEKと本学が開催した高校生のための素粒子サイエンスキャンプ「Belle Plus（ベル プリュス）」にTAとして参加し、指導や運営に携わりました。このサイエンスキャンプは、最先端の研究活動を高校生に体験してもらうことを目的として毎年開催されており、今回は全国から集まった22人の高校生が実験実習や施設見学などを楽しみました。

TAとして実習で高校生の指導に当たるのはもちろんですが、全国から参加する高校生一人一人が安心・安全に4日間を過ごすことができるよう生活面のサポートや、参加者同士のコミュニケーションを促すことも、TAの重要な役割です。本学のTAが企画・実施した交流会や実験実習は大変な盛り上がりを見せ、良い雰囲気作りに特に貢献しました。

川下さんは今回の活動を通して、「学部時代に、理数離れの打開策を研究する中で、実際に子どもたちが自ら手を動かしたり、現物を見たりすることが、子どもたちの心によく響くと感じてきました。今回、最先端で研究している研究者から直接講義を受けたり、実験を行ったり、実験施設を間近に見たりと、実際に生徒たちが自らさまざまなことを体験する中で、とても充実した表情で、意欲的に課題に取り組む様子を見て、改めてそう感じました。」と話しています。

大学生のための素粒子・原子核、物質・生命スクール サマーチャレンジ 2013

中井さんは、KEKが開催した「サマーチャレンジ」に参加しました。このスクールは、基礎科学を担う若手を育てることを目的に、大学3年生を対象として毎年行われています。研究の最前線で活躍する研究者による講義や施設見学、実習などが用意され、基礎科学のさまざまな研究分野を身をもって知る機会となるだけでなく、科学を志す仲間との出会いや今後の進路を考えるきっかけとなる企画です。

「教育学部だから、他大学の理工系学部の人たちに負けても当然

であるという思いは一つもなく、自分にしかできないことや自分でもしっかりと渡り合えるだけの力があると信じて、予習や素粒子物理学に関する勉強をしました。実際に参加してみて、メンバーの意識の高さに驚きました。自分の考えや将来像がしっかりといて、それに向かってまっすぐに進もうとする志に圧倒されました。ここで共に学んだメンバーとの出会いが、今後の人生に大きな影響を与えることは言うまでもありません。」と中井さんは参加した感想を話しています。今回の素晴らしい体験を後輩に伝え、本学から一人でも多くの学生にこのスクールに参加してもらいたいと思っているそうです。

ILC 計画 国際シンポジウム「宇宙の謎に迫れるか！」

後藤田さんは、KEKが推進している国際リニアコライダー（ILC）計画の国際シンポジウムで登壇し、教員志望学生の視点から先端科学と教育について発表しました。「サイエンスキャンプなど、子どもたちに科学を紹介する催しにこれまでたくさん参加してきた経験から、科学に興味を持った子どもたちが、いかにその興味を持続させることができるのかを考えるようになりました。研究者が子どもたちに何度も科学に関する講演を実施すれば、子どもたちの興味を「点」から「線」に変えることができるかもしれませんが、それでは、研究者が本業の研究に手をつけられなくなってしまいます。そこで、「点」をつなぐことができる、子どもたちにもっと身近な存在が「教員」だと考えています。教員が「点」を「線」につなぐために私が提案するのが、研究者と教員が連携できるチーム・機関づくりです。このチーム・機関では、教員は先端科学を学び理解し、研究者は教育や子どもの現状を理解した上で、子どもたちのためのサイエンスキャンプや科学教室を開催するのです。先端科学と教育の融合が進むことを期待しています。」

理数離れが問題となる昨今、彼らのように子どもたちに科学の魅力をいかに伝えるのかを考えながら、自らの専門性を高める姿勢は、これからの教員に必要とされるものではないでしょうか。今後の活躍が期待されます。

【理数教育研究センター】 <http://nesm.nara-edu.ac.jp/>



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属11団体、体育会所属28団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、ラグビー部です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- 書芸部
- ウインドアンサンブル
- 地歌謡曲部
- 軽音楽部
- 現代視聴覚文化研究会
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コーラルグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会)
- すぎのこ

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部
- 体操競技部

[学生団体・クラブ紹介] http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

ラグビー部 部員数17人

ラグビー部は、現在3年生5人、2年生4人、1年生4人、マネージャー4人の計17人で、週3回活動しています。昨年度から2季連続で関西大学ラグビー7'sリーグにおいて全勝優勝を果たしました。部員の約半分は初心者で、真剣な中にも楽しさを見出しながら活動しています。今は15人制復帰を目標に日々取り組んでいます。

All for the Team



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 国語教育専修 2年生
熊本県立済々黌高等学校出身

ラグビー部 主将
むらかみ たいぞう
村上 泰三 さん

ラグビーによく使われる言葉に、“One for All, All for One” というものがあります。「一人は皆のために、皆は一人のために」と解釈されがちなこの言葉ですが、実はこの言葉の中で用いられる“All for One”の“One”とは「一人」ではなく「勝利」の意味であったそうです。つまり、この言葉の本来の意味は、「一人は皆のために、皆は勝利のために」となるわけです。

ところで、私たち奈良教育大学ラグビー部は、2期前までは、集まって軽くボールを触って…といった遊びのようなチームだったそうです。それまでの部を否定するわけではありませんが、昨期熊谷主将の代からがらりと方針を変え、「勝つためのラグビー」に取り組みました。その中で、

私たちのラグビーは、ただ楽しいだけの“fun”なものから、充足感を伴う“enjoy”へと変化していきました。結果、平成24年度の7'sリーグで全勝優勝を果たすことができました。

そして、平成25年度のリーグ戦、前年度に続き全勝で優勝を飾ることはできたものの、一人一人が強い想いを持って取り組むがゆえに、方針や意識のズレからぶつかり、休部する者や退部する者も出てしまいました。私は2連覇を素直に喜ぶことができず、うれし涙を流すことができませんでした。

来シーズン、奈教ラグビー部は15人制リーグ復帰を目指します。さまざまな苦労や困難も出てくることでしょう。15人制の舞台に立つために、メンバーを欠くことは許されません。私たちは各々が苦しい中でも自分の役割、自分にできることを見つけ、「チームのために」取り組む必要



2連覇を決めた試合での集合写真です。リーグ戦のベストメンバーに7人が選出されました



主に近場でのディフェンスを鍛える練習です。



ウエイトトレーニングも定期的に行うようになっています。

があります。私は来季、チーム方針を“All for One”ではなく“All for the Team”として掲げます。自分が苦しくてもチームのために力を尽くして闘う。それがラグビーという球技であると、私は信じているからです。

活躍する奈教生

文化系



柳澤 美希さん(大学院2年生)

- ◆第60回日本学書展
「文部科学大臣賞
(高等学校生徒・大学生 仮名・漢字仮名交じり)」

西部 裕香子さん(大学院2年生)

- ◆第7回横浜国際音楽コンクールピアノ部門
一般Aの部「第5位」

岡田 温子さん(大学院2年生)

- ◆第67回二紀展 絵画の部「入選」

岡田 直子さん(教育学部4年生)

- ◆第64回奈良県美術展覧会(県展)彫刻の部「入選」
- ◆第55回大和高田市美術展覧会(市展)
彫塑の部「教育委員会賞」

体育系



吉迫 佳織さん(教育学部4年生)

- ◆第64回関西公立大学選手権
水泳競技大会
女子100mバタフライ「第1位」

廣瀬 友和さん(教育学部4年生)

- ◆第55回関西学生体操選手権大会
男子種目別 ゆか「第6位」
鉄棒「第2位」
- ◆第67回全日本学生体操競技選手権大会
男子2種目別 鉄棒「第6位」
- ◆第51回近畿地区国立大学体育大会
体操競技 個人総合「優勝」
ゆか・吊り輪・跳馬・平行棒・鉄棒「優勝」

弓道部

- ◆第29回全国教育系大学弓道選手権大会
男子団体「優勝」

- ◆第51回近畿地区国立大学体育大会弓道競技「準優勝」
- ◆男子リーグ戦4部優勝・3部昇格

ラグビー部

- ◆大学7'sリーグ「優勝」

速報

3月3日に学生表彰式を開催。学長表彰6名と学生委員長表彰22名を表彰しました。



11月14日・15日



啓発活動を行う学生

米の良さを伝える啓発活動を実施

「なっきょん食育塾」（平成 25 年度学生企画活動支援事業）の学生が、食堂前広場において、食情報便りや米粉にんじんクッキーを配布しました。

「なっきょん食育塾」は、自らが健康に関する活動を企画・運営することで、全学的な食育を

推進しようと、家庭科教育専修の学生らで組織されたもので、米の消費が減少している現状と、米の大切さや良さを学生や教職員に知ってもらうことを目的に、今回の活動を実施しました。

【学生企画活動支援事業】

http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/planning.html

12月8日



学生に質問を投げかける加藤氏

地域に根ざしたプロスポーツの役割についての講演会を開催

高橋豪仁教授の授業の一環として、奈良県初のプロスポーツチーム「バンビシャス奈良」（bjリーグ）代表の加藤真治氏を講師に迎え、プロスポーツが地域の活性化に資する役割についての講演会を開催しました。当日は、松田勇人奈

良市スポーツ振興課長も出席し、奈良市のスポーツ振興政策についての説明も行われました。

12月19日



表彰台で金メダルを手にする
サヤラットさん

東南アジア競技大会 柔道52kg級で優勝、三連覇！

ラオスからの留学生 サヤラット・ポンナリーさん（大学院 1 回生・岡澤研究室）が、ミャンマーのネビドーで開催された東南アジア最大の

スポーツの祭典、東南アジア競技大会において、柔道女子 52kg 級で優勝し、大会三連覇を達成しました。

1月8日



現地の子どもの様子を紹介する渡部氏

被災地の子どもの現状を伝える講演会を開催

東日本大震災から 3 年近く経過し、子ども達の置かれている現状がなかなか伝わってこなくなっている状況において、少しでも多くの学生らに現地の子どもの現状を知ってもらおうと、岩手県陸前高田市で巡回型スクールカウ

セラーとして活躍する渡部友晴氏を講師に迎え、開催しました。

また、本学がこれまで 9 次に亘って取り組んでいる教育復興支援活動の報告会も行いました。

10月1日～1月14日



作成した地域安全マップを説明する受講生

奈良県警察本部との協働による授業を実施

後期教養科目として、奈良県警察本部との協働による「子どものための安全安心ボランティア」を実施しました。

受講生は、自主防犯活動に取り組む団体による講演、子ども家庭相談センターの見学、他

府県で活動する学生ボランティアとの意見交換、不審者対応訓練、サイバーパトロール、立ち直り支援活動体験、地域安全マップ作りなどに取り組み、子どもの安全安心を守る活動に理解を深めました。

1月16日



いろは写経に取り組む留学生

留学生がお寺で日本文化を体験

日本語・日本文化研修留学生、教員研修留学生、協定校からの交換留学生を対象にした日本文化体験を、奈良市にある喜光寺で実施しました。喜光寺は行基によって建立され、東大寺のモデルに

もなった由緒あるお寺です。留学生たちは「いろは写経」を願い事と共に納めた後、茶の湯を体験し、日本人の心の原点に触れました。



附属中学校 10月26日



ESD・ICT公開研究会を実施

附属中学校では、「ESD の理念にもとづく学校づくり」のテーマで研究を行い、平成 23 年度からは、『未来を創る子ども』を育む ESD をテーマに取り組み、これまで全教科領域にわたって ESD を実践し、その成果を報告してきました。今年度の公開研究会は、土曜日に開催し、午前中は公開授業と、2、3 年の生徒たちによる総合的学習の時間や公州

大学校附設中学校との交流についての発表を行いました。また、午後には、ICT 講演会と全体講演会を行いました。公開授業では ICT 教育の取り組みとしてタブレット PC や電子黒板を利用した教科もあり、奈良市をはじめ県内外から約 230 名が参加、学生も、大学の「学び喜びプロジェクト」との連携で 100 名以上が参加しました。

附属幼稚園 11月22日



白毫寺へたんけんに行こう(きぐみくらぶ)

年長児(きぐみ)は、普段できないようなさまざまな体験をすることで、視野を広げ、さらに好奇心を高めていくことができるようにと、毎週金曜日の午後に「きぐみくらぶ」という時間を設けています。この日は、近くの白毫寺まで、往復の道順が書かれた地図を持って「たんけん」に出かけました。グループ毎に違う道を通して白毫寺ま

で行きます。途中、細い暗い道を通ったり、クイズ(「ここから見える山の名前は?」「神社の狛犬は何匹?」など)の答えを考えたりしながら、初めての知らない道にドキドキワクワクする楽しい「たんけん」です。ゴールの白毫寺の階段を上り、山門から見える奈良の街の景色を見て思わず「きれい!」と声をあげる子どもたちでした。

附属小学校 12月6日



感動を呼んだ付小音楽会

全校児童による「付小音楽会」を本校の体育館で開催しました。この音楽会では、歌唱を中心とした子どもたちの取り組みの姿と、本校がこれまでも力を入れてきた全校合唱の成果を、保護者に披露しました。

観覧した保護者からは、どの学年も、特別支援

学級も、生き生きと歌っているとの声をいただきました。また、全校合唱で披露した『ぞうれっしゃがやってきた』は、事前に、絵本の著者である小出隆司さん(名古屋市在住)から話を聞いたことで、当日の歌声はより感情のこもった素晴らしい仕上がりとなり、保護者の感動を呼ぶものとなりました。

奈良に息づく仲間たち



【自然環境教育センター】
<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己

奈教版レッドリスト



レッドリストとは地域における野生動植物の棲息状況を示している。レッドは絶滅を危惧するレッドである。日本には各地でたくさんの絶滅危惧種がいる。奈教ではどうだろう。

本学構内には数年前まではホタルが飛び、スズムシの声が聞こえていた。両種とも既に絶滅種である。この「ならやま」でネジバナが咲かないことや、いくつかの種が危機的状況に



▲保水力がなくなり土が流れる。
その土の行き先は?

▲松は浅根性で、
踏み固めに弱いので、心配!!

あることを紹介してきた。ヘラオオバコもヤセウツボも激減している。残ったタンポポ科類も矮小化している。今後も多くの種が絶滅するだろう。構内がきれいになるほど花は減る。集めて捨てられる落ち葉の下はこどもの好きなダンゴムシの棲息地だ。落ち葉と共に窒素も消失し、地力は落ちる。ESD とは相容れない行為だろう。花が咲かず、一部の授業も中止せざるを得ない。子どもの虫捕り、園児の花摘み場になる構内は奈教の財産なのに!!

鳥居センター長による連載は、今回は最終回です。





周りに流されない強い意思

部活や卒論に取り組む中で、周りに流されずに、自分がここまでやると決めたならそこまでやり通すことの大切さを学んだ。

あきた たくや
秋田 卓也さん(身体・表現コース)



仲間の大切さ

学生自治会活動を通してさまざまなことに取り組んだが、仲間たちと意見を出しあって話し合いながら進めることができたからこそ、成し遂げることができた。

いずみたに ただし
泉谷 忠至さん(言語・社会コース)



人とのつながり

スクールサポートやボランティア、ゼミなどを通して多くの素晴らしい人と出会い、つながることができた。人に恵まれた大学生活だった。

かすが ひろあき
春日 光さん(理数・生活科学コース)



協力と努力から 得られる達成感

「部活」「実習」「教授」「卒論」という大学生活の大きなポイントにおいて、周りの協力と自分自身の努力がなければ得られなかった達成感を得ることができた。

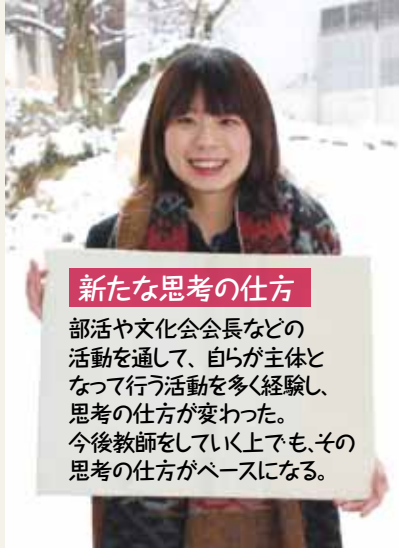
ひよし ゆり
樋渡 友理さん(教育・発達基礎コース)



積極性

今しかできないことをやろうと、フットワーク軽く部活や研究、遊びなどさまざまなことに積極的に挑戦し、いろいろなことを学んだ。

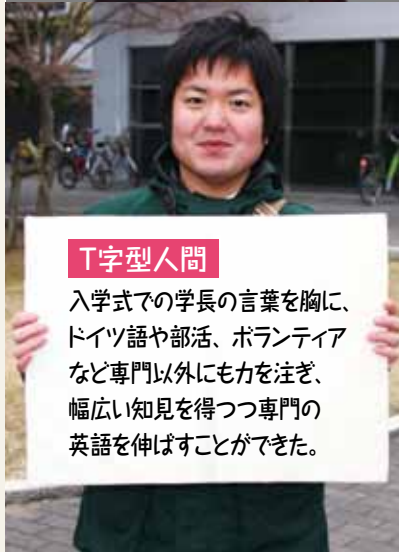
よしだ かおり
吉迫 佳織さん(身体・表現コース)



新たな思考の仕方

部活や文化会会長などの活動を通して、自らが主体となって行う活動を多く経験し、思考の仕方が変わった。今後教師をしていく上でも、その思考の仕方がベースになる。

やしい みき
矢追 美佳さん(教育・発達基礎コース)



T字型人間

入学式での学長の言葉を胸に、ドイツ語や部活、ボランティアなど専門以外にも力を注ぎ、幅広い知見を得つつ専門の英語を伸ばすことができた。

なんば ひろゆき
難波 博之さん(言語・社会コース)



達成感と表現力

学生オペラに取り組み、仲間と協力して一つのことをやり遂げる達成感を得た。また、自分を表現する力を得ることができた。

なかずみ りな
中住 稚奈さん(身体・表現コース)

奈良 教 生 に 聞きました！

vol.10

「奈教で得たもの」

卒業生・修了生の皆さん、おめでとうございます。今回は、卒業される皆さんにこの奈良教育大学で過ごした日々を振り返っていただき、何を得ることができたのか聞きました。



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QRコード対応の携帯電話にてアンケートに回答いただくことができます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なつきよん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務企画課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第45号 平成26年3月25日 編集／広報委員会 発行／国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>